

小規模公園の再整備による空間と利用の変化に関する研究

A Study on the changes of utilization and spaces in regenerating urban small park

呉 垠錫* 木下 剛* 池邊 このみ* 廉 晟振*

Eunseok OH Takeshi KINOSHITA Konomi IKEBE Sungjin YEOM

Abstract: This study aimed at acquiring planning knowledge and opinions on future parks regeneration; by conducting research on how urban small park regeneration affects utilization patterns and visitor's satisfaction levels before and after regeneration. As a result, higher levels of satisfaction and time spent in both parks after regeneration were noticed compared to the parks before regeneration. Hanahata Park regeneration, focused on expanding facilities and tree preservation, with zoning that emphasized limitation in space organization. In contrast, Gochoda Park regeneration, focused on expanding facilities and arranging trees, with zoning that expanded space through construction of a square without any limitation. Although these two parks have different design objectives, the purpose of regeneration and demands by local residents have been achieved in both parks, and problems that existed in the parks solved with improved satisfaction and promotion of visitation through changing space organization. In addition, we conclude that a balance of the two opposing views; expanding facilities and preservation of resources is significant for urban small park regeneration in the future.

Keywords: *small park, park regeneration, spatial composition, utilization pattern, user satisfaction*

キーワード: 小規模公園, 公園再整備, 空間構成, 利用形態, 利用者満足度

1. はじめに

都市公園法の制定から50年以上が経過し、公園施設の老朽化や管理水準の低下が進むと同時に少子高齢化や生活スタイルの変化などによる公園に対するニーズの変化を原因とする利用率の低下や安全面の低下などの様々な問題を抱えるようになった。それに伴い、公園機能と利用者ニーズとの乖離も目立つようになった。また、用地確保の難しさや財源不足などにより、都市公園の新設も困難な状況の中、このような問題の解決や公園に対する地域住民のニーズに応えるため、既存公園を活かし、老朽化した施設の適切な改修や拡充、バリアフリー化、植栽の管理などを行い、安心安全な公園利用、地域の活性化につながる都市公園づくりの手法として公園再整備の必要性が指摘され、多くの自治体で単独の都市公園事業として、また、緑の基本計画などに取り入れられて、対処されてきた。こうした状況の中で、公園再整備事例に関する様々な研究報告が提示されているが、既往研究の多くはワークショップによる市民参加や官民協働を中心とした公園再整備事業の全般的なプロセスに関する研究¹⁻³⁾、公園再整備事例の概要や事業の経緯、維持管理などにおける今後の課題を述べた事例報告⁴⁻⁶⁾、であり、再整備による空間構成の変化を分析した研究は殆どみられない。また、都市公園における利用者の満足度評価に関する既往研究としては、公園の評価構造に関する研究⁷⁻⁸⁾、公園の管理・運営の観点からの利用者満足度に関する研究⁹⁻¹⁰⁾などがあるが、公園再整備による空間の変化という視点から利用者の満足度について検討した研究¹¹⁾は十分に行われていない。そこで、本研究は、対象公園の再整備前後の空間ゾーニングや施設といった空間構成の変化が利用者の利用形態や公園に対する満足度に与える影響について調べ、再整備による効果及び影響を明かにすることで、今後の小規模公園の再整備における計画論的な知見を得ることを目的とした。

2. 研究の方法

(1) 対象公園の選定基準及び概要

本研究は全面的な公園再整備が行われた公園を選定し、再整備前後の公園の変化を認知している公園利用者を対象として研究を行った。そのため、全面的な公園再整備事例であること、公園利用者が再整備前後の公園の変化が認知できる最近の事例であること、都市公園であることを選定基準に設定し、それにすべて合致する2009年3月に全面的な再整備が行われた東京都足立区の花畑公園と五丁田公園を選定した。両公園は現在の都市公園が一般的に抱える問題や課題の解決のため、再整備が行われた典型的な都市公園である。花畑公園は1984年9月に開設された面積約2.3haの近隣公園である¹²⁾。120本の桜に囲まれた芝生広場が特徴であり、桜の花見で有名な地域の名所だが、高齢者の介護予防や子供の基礎体力の増進を目的とした健康広場というテーマを掲げ、再整備が行われた。五丁田公園は1962年12月に開設された面積約0.3haの街区公園である¹²⁾。閑静な住宅街に位置し、主に小学生の利用が多かったが、施設の老朽化や植栽の繁茂による安全性の悪化、利用率の低下などの問題の解決のため、再整備が行われた。

(2) 調査方法

まず、再整備前後の図面と写真を用いて現地での確認を加え、空間構成の変化を把握した。次に、再整備による利用形態や満足度の変化を調べるために、対象公園に対して再整備前後の利用経験のある利用者を被験者とし、1次アンケート調査を実施した。調査の内容は再整備前後の公園利用の変化を把握するために利用頻度、利用時間、公園に対する満足度について調査を行った。さらに、現在の都市公園の一般的な利用目的であり、かつ施設の特異性を考慮した16項目を設定し、再整備前後の公園の利用目的について調査した。そして、再整備前後の空間構成と利用形態の変化に対する利用者の認識と満足度の変化との関係性を調べるため、再整備により変更のあった空間構成や施設内容を基に設定した18項目について、再整備前の短所と思うか/再整備後の長所と思うかを回答してもらった。また、再整備による空間の変化と利用特徴を調べるために再整備前後のよく利用する空間、好きな空間

*千葉大学大学院園芸学研究所

表-1 アンケート及びヒアリング調査の概要

1次アンケート調査			ヒアリング調査				2次アンケート調査				
対象公園	花畑公園	五丁田公園	対象公園	花畑公園		五丁田公園		対象公園	花畑公園	五丁田公園	
調査対象	再整備前後の利用経験がある公園利用者		調査対象	ワークショップ参加者	設計者	ワークショップ参加者	設計者	調査対象	再整備前後の利用経験がある公園利用者		
調査期間	2011年3月～4月(7回)			仲組4丁目町会 元町会長	(株)シビック デザイン研究所 代表取締役	大谷田西部 自治会 事務局長	中央技研(株) 技術課長		調査期間	2011年6月～2011年7月(6回)	
回答数/ 有効回答数	150/150(男71, 女79)	90/90(男32, 女58)						回答数/ 有効回答数	80/80(男31, 女49)	50/50(男20, 女30)	
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 公園の利用頻度：5段階評価 公園の利用時間：5段階評価 公園の利用目的：複数回答(16項目) 公園のよく利用する場所、好きな場所：選択回答(5項目) 公園の満足度：5段階評価 再整備前の公園の短所：複数回答(18項目) 再整備後の長所：複数回答(18項目) 回答者の属性：選択回答(3項目) 		調査期間	2011年6月10日	2011年6月17日	2011年6月14日	2011年6月20日	調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のマナーについて(2項目) 公園の安全性について(3項目) みどりの保存について(2項目) 施設の改善について(5項目) 公園の利用について(4項目) 再整備後の公園に対する満足度について(1項目) すべての項目は5段階評価 	<ul style="list-style-type: none"> 公園の安全性について(4項目) みどりの保存について(3項目) 施設の改善について(4項目) 公園の利用について(5項目) 再整備後の公園に対する満足度について(1項目) すべての項目は5段階評価 	
			調査項目	<ul style="list-style-type: none"> 再整備前の公園が抱えた問題について(両者) ワークショップに出された住民の要望や課題について(ワークショップ参加者) 地域住民や行政からの要望や課題について(設計者) 要望や課題に応じた設計の意図について(設計者) 							

を回答してもらった。さらに、地域住民の公園に対する要望や行政から出された課題、再整備の目的、そして、それに対応した設計意図と実際の空間との関係を調べるために、再整備のワークショップに参加した地域の自治会メンバーや改修設計を行った設計者に直接インタビューの形式でヒアリング調査を行った。ヒアリング調査で把握した地域住民の公園に対する要望や課題に対応した設計意図と、それに基づく空間構成の変化が公園の満足度に与える影響を調べるため、2次アンケート調査を行った。1次アンケート調査と同じ方式で、ヒアリング調査で確認できた再整備前の課題が解決されたかどうか、地域住民や行政からの要望が達成されたかどうか、設計意図が有効であったかどうかを確認することを目的とした16項目を設定し、5段階評価を行った。再整備のためのワークショップへの参加者は、両公園ともに近隣自治会の代表者約10名で、2次アンケート全体の被験者数に比して少ないため、2次アンケート調査ではワークショップへの参加の有無は確認しなかった。表-1は2回のアンケート調査とヒアリング調査の概要を示したものである。

3. 結果と考察

(1) 再整備による空間構成の変化

花畑公園は高齢者の介護予防や子供の基礎体力の増大という行政からの課題や自由空間である芝生広場での利用の混雑やマナーの悪さなどの苦情や緑の保存、施設の拡充への要望といったワークショップから出された地域住民の意見を背景¹³⁾に利用目的や空間機能を限定する方向性をもつゾーニングにより、二つの空間に分けられ、利用混雑を解消した再整備が行われたことがわかった。施設に関しては芝生広場は健康広場として全長200mのウォーキングコース、健康運動器具7基、築山を設置し、散歩や運動などの利用を目的とする空間として再整備された。そして、既存の遊び場と空地に遊具施設を拡充し、年齢別に児童と幼児の遊具コーナーを設けることで、子供の遊びを目的とする空間として再整備された上に、園路の整備による利用動線が計画された。植栽に関しては、120本の桜はすべて保存され、広場から遊び場の間の樹木の伐採(7本)と築山、幼児遊具コーナー周辺に新植(9本)が行われた(図-1)。

次に、五丁田公園もワークショップから出された住民の要望や課題に応じた空間構成の変化が見られた。施設の老朽化や樹木の繁茂による、安全性の低下、施設の混雑による公園の狭小化、主な利用者である小学生の利用率の減少、トイレの利用に関する周辺の住民の苦情などの問題や施設の改修・拡充、樹木の管理による安全性の確保への要望を背景に再整備が行われたことがわかった¹⁴⁾。まず、再整備前の公園のフェンスや花壇、段差をすべて撤

去し、公園の中央部にはイベントなど多目的な利用を目的とした面積約0.1haの広場を整備し、自由な動線を計画した。また、広場の周りに、遊具、健康運動器具、パーゴラ、トイレなどの施設の拡充を行い、空間が分けられた。そして、繁茂した樹木は伐採(38本)、移植(13本)、新植(23本)を行い、見通しの確保を最優先に考えた植栽管理が行われた(図-1)。

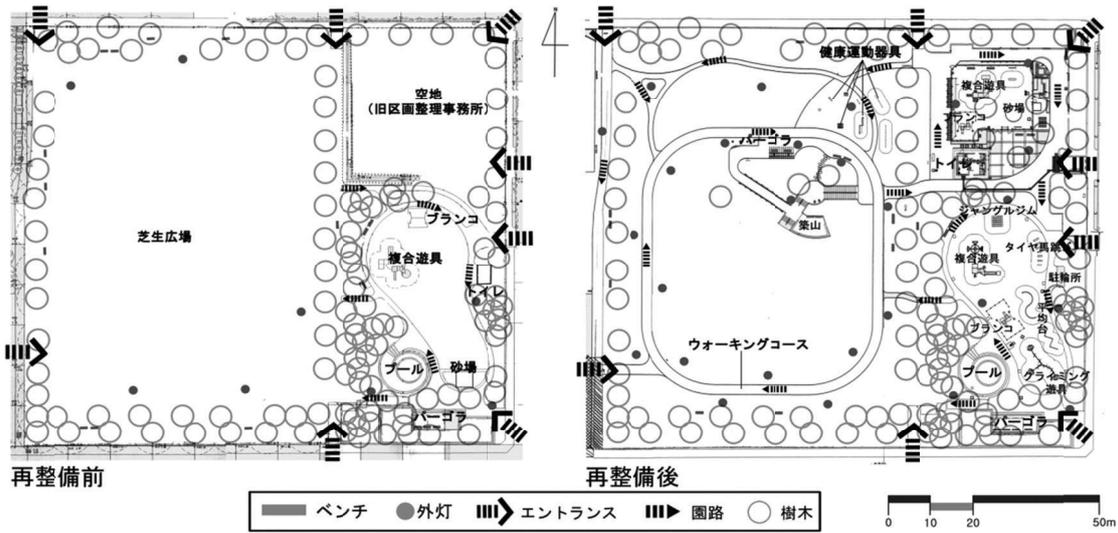
このことから、花畑公園は再整備により、空間機能の限定性を高めるゾーニングによる施設の拡充とともに、植栽の保護が行われ、再整備前の公園の最も大きい問題であった利用混雑の解消や緑の保存に適した再整備が行われたことが読み取れる。一方、五丁田公園は多目的な利用を図る広場を中心に部分的に施設を拡充するという花畑公園とは異なり、全体として空間構成の限定性を弱めるゾーニングとともに、樹木の整理が行われ、施設の老朽化や安全性の確保という問題の解決を図る再整備が行われたと言える。そして、両公園ともに緑の保存といった要望があるものの、植栽の整理において異なる再整備が行われたのは公園の規模が原因であると考えられる。花畑公園は五丁田公園に比べ、広い面積で樹木に影響を与えずに、施設の拡充、配置が可能であるが、五丁田公園は限られた空間での広場の整備や施設の拡充が行われ、安全性の確保といった最も重要な課題に対応するためには植栽の整理をせざるを得ない状況であったことが原因であると推察できる。つまり、公園の規模や施設、課題の内容に応じて、ゾーニングの見直しを含む多様な設計意図、設計手法に基づく再整備の可能性が示唆された。また、ワークショップを通じて地域住民の要望や行政的な課題を把握し、それを解決するための設計意図を明確した上で、再整備が行われたと考えられる。

(2) 再整備による公園の利用形態と満足度の変化

まず、再整備による公園利用の変化を把握するために、利用時間、利用頻度、満足度について5段階評価を行い、再整備前後の平均値を比較した。その結果、両公園ともに、「利用頻度」、「利用時間」、「満足度」について再整備前後に有意な差があることが明らかになった(図-2, 3)。このことから、再整備後の公園が再整備前に比べ、頻繁に、長い時間利用され、満足度も向上したことが確認できた。つまり、再整備による空間構成の変化が公園の利用の促進や公園に対する満足度の向上に有効であったと考えられる。

さらに、再整備による利用目的の変化を把握するために、再整備前後の利用目的について比較を行った。その結果、両公園ともに、散歩や子供を遊ばせるといった主な利用目的は再整備前後に変わらなかったが、運動・スポーツやトイレの利用を目的とした公園利用者が増加していることが分かった(図-4, 5)。その要因として、再整備による健康運動コーナーの新設や施設の拡充が公園の役割や活用範囲の拡大に良い影響を及ぼしたと考えられる。

花畑公園



五丁田公園

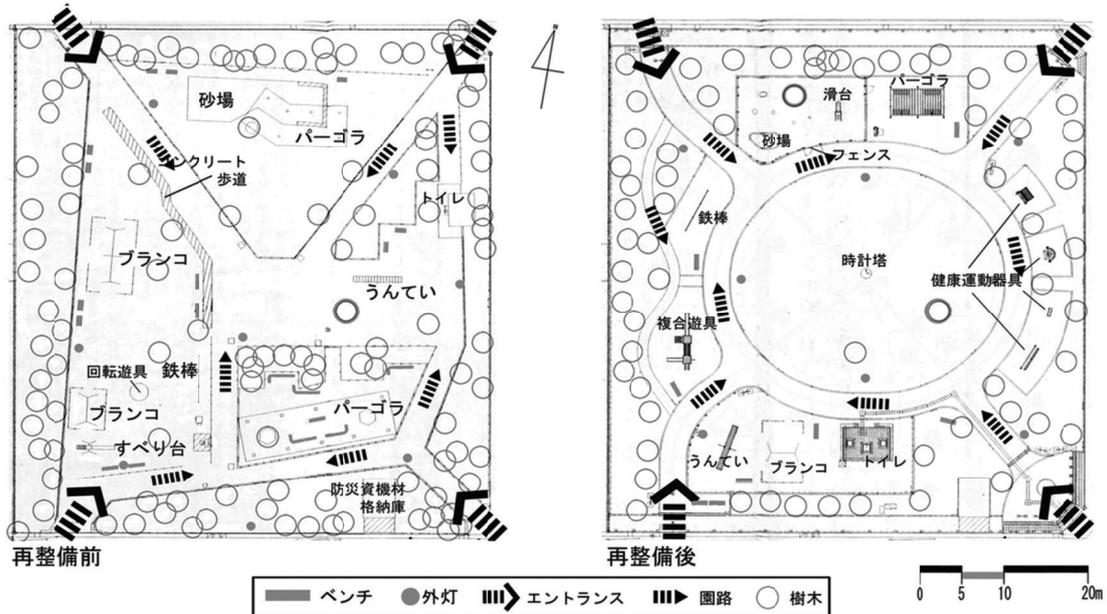


図-1 再整備前後の空間構成の変化¹⁵⁾

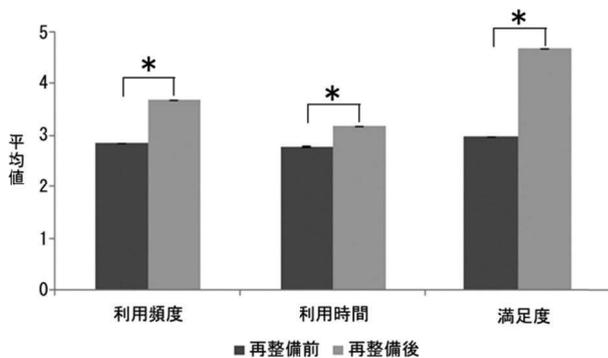


図-2 花畑公園の再整備前後の利用形態や満足度の比較
t-検定の結果、*は有意差があることを示す ($p < 0.05$)

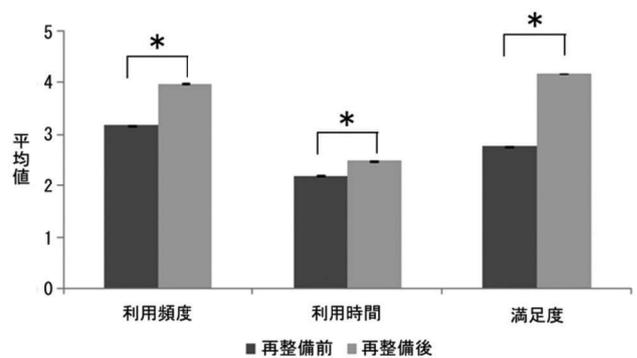


図-3 五丁田公園の再整備前後の利用形態や満足度の比較
t-検定の結果、*は有意差があることを示す ($p < 0.05$)

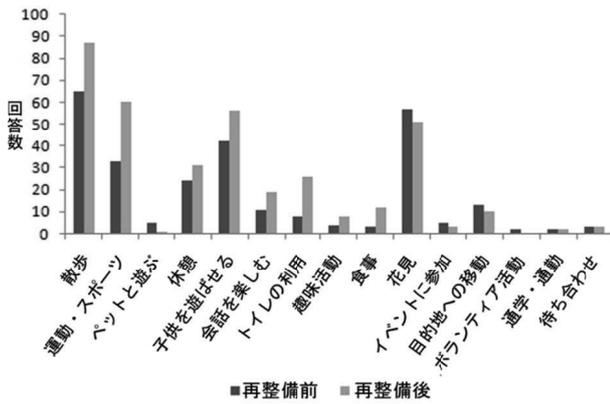


図-4 花畑公園の再整備による利用目的の比較

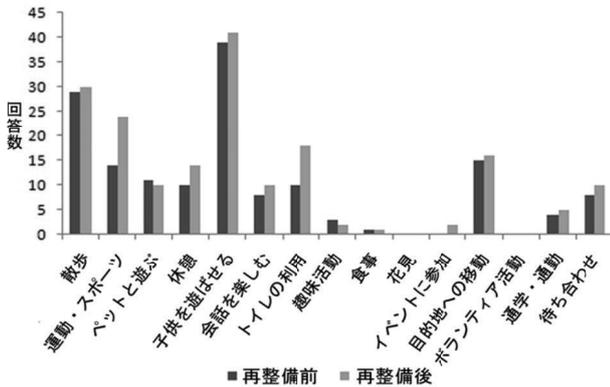


図-5 五町田公園の再整備による利用目的の比較

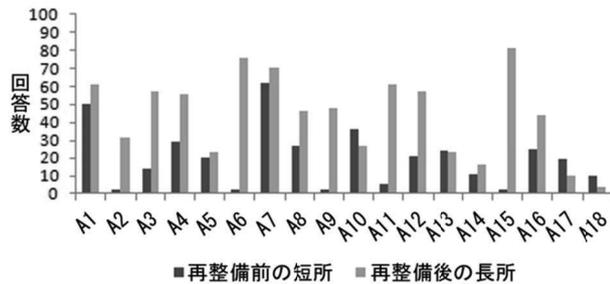


図-6 花畑公園の再整備による利用者の認識変化

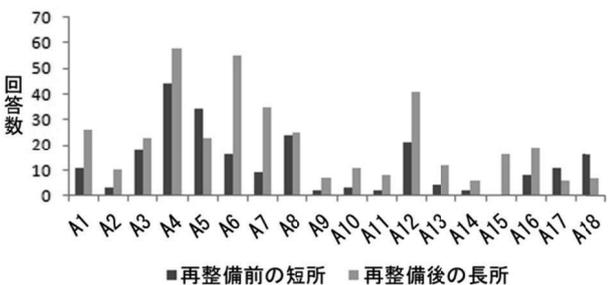


図-7 五町田公園の再整備による利用者の認識変化

そして、再整備による空間と利用の変化に対する利用者の認識が公園の満足度に与える影響を調べるために、再整備前の短所と再整備後の長所を調べ、比較を行った。その結果、花畑公園は再整備前に短所として認識された「健康運動器具の充実」、「公園の賑やかさ」、「見通しの良さ」、「治安の良さ」、「遊具施設の充実」、「歩道空間の良さ」、「休憩施設の充実」、「安心して子供を遊ばせる」、

表-2 図6, 7の再整備前後の長所・短所の18項目の一覧

項目	長所の詳細内容	短所の詳細内容
A1	健康運動器具が充実している	健康運動器具が少ない
A2	景色が良い	景色が良くない
A3	人が多くてにぎやか	利用者が少ない
A4	明るく見通しが良い	暗くて見通しが悪い
A5	治安が良い	治安が悪い
A6	広々とした空間があって開放感が感じられる	広場もなく、公園が狭い
A7	遊具施設が充実している	遊具施設が少ない
A8	移動及び歩行空間が良い	移動及び歩行空間が悪い
A9	自然を感じられる	自然を感じられない
A10	休憩施設が充実している	休憩施設が少ない
A11	木や花などの緑が多い	木や花などの緑が少ない
A12	安心して子供を遊ばせる	安心して子供を遊ばせられない
A13	多様な目的での利用ができる	多様な目的での利用ができない
A14	施設案内の看板が充実している	施設案内の看板が少ない
A15	季節感を感じられる	季節感を感じられない
A16	年齢により子供の遊び場を区別させる	幼児が遊べる場所がない
A17	照明設備が充実している	照明設備が少ない
A18	その他	その他

「多目的な利用」、「施設案内の看板の充実」、「遊び場の区分」、「照明施設の充実」といった12項目が再整備後に長所として認識している傾向が確認できた(図-6)。次に、五町田公園は再整備前には短所として認識された「健康運動器具の充実」、「公園の賑やかさ」、「見通しの良さ」、「治安の良さ」、「広々とした空間による開放感」、「遊具施設の充実」、「歩道空間の良さ」、「安心して子供を遊ばせる」、「遊び場の区分」といった9項目が再整備後に長所として認識されている傾向が確認できた(図-7)。このことから、花畑公園は施設の拡充、五町田公園は公園の安全性において、再整備を通じて改善され、利用者の高い満足度に影響を及ぼしていることが推察できた。

次に、再整備による空間の変化と利用特徴を調べるために、再整備前後のよく利用する場所と好きな場所を比べた結果を見ると(図-8, 9)、まず、花畑公園は広場がよく利用する場所であることは変わらなかった。しかし、再整備前は植栽された場所をよく利用した利用者が多かったが、再整備後は施設が設置された場所をよく利用する利用者が多くなっていることが分かった。また、好きな場所に関しても再整備により、植栽された場所から施設が設置された場所が変わったことが分かった。一方、五町田公園は遊具施設が設置された場所と広場がよく利用する場所であることは変わらなかったものの、再整備後は施設が設置された場所と広場に拡散していることが分かった。

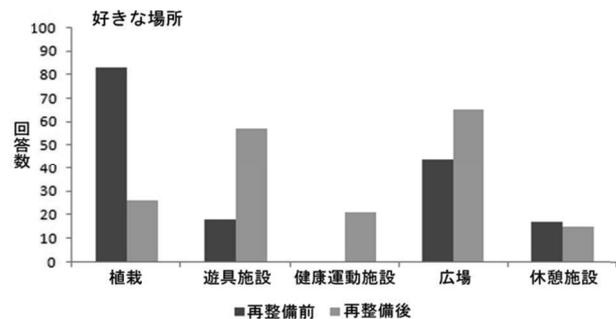
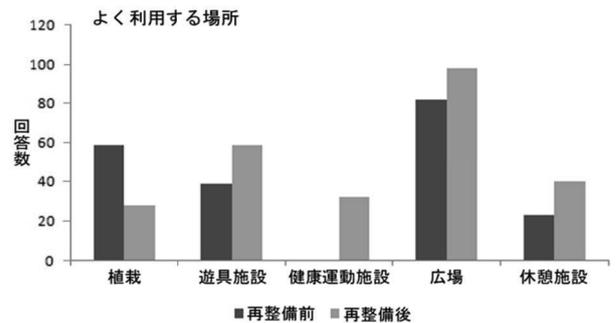


図-8 花畑公園の空間利用の変化

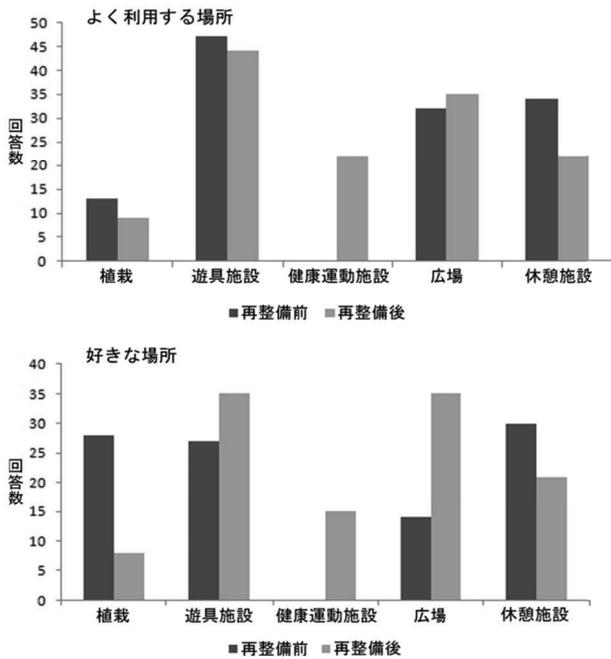


図-9 五町田公園の空間利用の変化

このことから、再整備の設計意図に対応する利用形態とその変化が確認できた。また、そのことが満足度の向上に影響を与えた可能性が示唆された。以上のことから、再整備のワークショップから出された公園に対する住民の要望や課題の解決を目的とした再整備の設計意図に沿った再整備が行われ、その結果、公園の利用が多様化し、利用促進が進み、公園に対する満足度の向上として現れたと考えられる。

(3) 再整備による公園の満足度と評価

公園に対する住民の要望、行政からの課題、それに応じた設計意図を内容とした16項目の評価が再整備後の公園の満足度と与える効果及び影響を調べるために、2次アンケート調査を行った。すべての項目は5段階評価を行い、平均点数を算出した。その結果、花畑公園はすべての項目が平均値の3点以上で高く評価されていることが分かった(表-3)。次に、五町田公園は満足度については高く評価されているものの、みどりの保存、成熟した緑に関する項目と広場の利用に関する項目は3点以下と評価されることが分かった(表-4)。

表-3 再整備後の花畑公園の評価(5段階評価)

花畑公園				
大別	項目	平均点数	標準偏差	回答数
利用者のマナー	芝生広場に犬を連れて来る利用者がいなくなりましたか	4.6625	.54988	80
	犬の放し飼いやゴミ捨てなど公園の利用マナーが良くなりましたか	4.6000	.56479	80
公園の安全性	公園内の見通しが良くなりましたか	4.4375	.72642	80
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	4.1375	.95126	80
	安心して子供を遊ばせるようになりましたか	4.5250	.63595	80
みどりの保存	成熟した緑により自然を感じられますか	4.1875	.88723	80
	樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか	4.4500	.72740	80
施設の改善	児童と幼児の遊具コーナーに分けられ遊びやすくなりましたか	4.5875	.60991	80
	トイレの使いやすくなりましたか	4.7500	.46389	80
	園路の整備により歩きやすくなりましたか	4.5375	.71057	80
	健康運動施設は健康に良い効果があると思いますか	4.5000	.69355	80
公園の利用	築山のリハビリ効果はありますか	3.9250	1.05272	80
	子供が外遊びを楽しむようになりましたか	4.5750	.63195	80
	利用目的により空間が分けられ利用の混雑が解消されましたか	4.4625	.71057	80
	利用者の年齢層が広くなりましたか	4.1875	.76463	80
	公園の利用者が増えましたか	4.6750	.54599	80
公園に対する満足度		4.6125	.62630	80

表-4 再整備後の五町田公園の評価(5段階評価)

五町田公園				
大別	項目	平均点数	標準偏差	回答数
公園の安全性	公園内の見通しが良くなりましたか	4.5800	.67279	50
	浮浪者・不審者がいなくなりましたか	4.1600	.88893	50
	安心して子供を遊ばせるようになりましたか	4.5400	.67643	50
みどりの保存	公園が明るくなりましたか	4.7400	.44309	50
	樹木や花など公園内のみどりは保存されていますか	2.4200	.90554	50
	多様な植栽が見られるようになりましたか	3.3000	.83910	50
施設の改善	成熟した緑により自然を感じられますか	2.2400	.84660	50
	トイレは使いやすくなりましたか	4.6000	.57143	50
	園路の整備により歩きやすくなりましたか	4.5000	.54398	50
	フェンス・花壇・段差の撤去で広く使えるようになりましたか	4.6600	.51942	50
	児童と幼児の遊具コーナーに分けられ遊びやすくなりましたか	4.3400	.82338	50
	広場の整備により、多目的な利用ができるようになりましたか	3.7000	1.12938	50
公園の利用	広場で行われるイベントに参加するようになりましたか	2.5200	1.87617	50
	広場でのイベントの際、使い勝手は良いと思いますか	3.9000	.88641	50
	利用者の年齢層が広くなりましたか	4.1800	.80026	50
	公園の利用者が増えましたか	4.4000	.60609	50
公園に対する満足度		4.0800	.80407	50

次に、公園に対する満足度と16評価項目との相関分析を行った結果、花畑公園は「浮浪者・不審者」、「成熟した緑」、「みどりの保存」、「利用混雑の解消」、「健康運動器具による健康の良い効果」、「築山のリハビリの効果」といった6項目と満足度の間にやや強い有意な正の相関が見られた(表-5)。また、五町田公園は「見通しの良さ」、「安心して子供を遊ばせる」、「年齢による遊び場の区別」、「みどりの保存」、「多様な植栽」、「成熟した緑」、「公園の明るさ」といった7項目と満足度の間にやや強い有意な正の相関が見られた(表-6)。

以上の結果から、花畑公園は地域住民の要望に応え、再整備前の公園の問題の解決や高齢者の介護予防や子供の基礎体力の増進といった再整備の目的が達成され、高い満足度にも影響を及ぼした可能性が想定される。また、桜や芝生の保存による成熟した緑という再整備前の公園の特徴や長所を活かした再整備が行われ、高い評価が得られ、満足度の向上にも良い影響を与えられた可能性があると考えられる。つまり、新しい施設の拡充と既存の資産である緑の保存といった異なる方向性を併せ持った再整備が行われ、公園に対する評価と満足度の向上に有効に作用したと考えられる。さらに、利用目的が異なる利用者の混雑を解消することで満足度に良い影響を及ぼしたことから、健康広場と子供の遊び場のように特化された再整備の目的を有する場合、利用目的や年齢に沿った空間のゾーニングが有効であることを示唆している。

一方、五町田公園は緑と広場の利用に関する項目が低い評価だったにも関わらず、満足度に関しては高く評価されたことから、利用者は植栽の伐採や間伐により、公園の緑が減少したと感ずるものの、再整備前の公園の最も大きい問題であった樹木の繁茂による公園の安全性の低下が樹木の整理により、解決され、高い評価を得られたことが満足度の向上に良い影響を及ぼした可能性が想定される。植栽や広場の利用の評価については3点以下の低い評価だったが、これは、地域住民の要望や課題に即した再整備でもあったことから、今後の公園利用の定着や推移を踏まえ、時間をかけて再評価を行っていく必要があると考えられる。

このように、両公園は公園に対する地域住民の要望に対応し、公園が抱える問題や課題を改善するため、異なる方向性の再整備が行われ、再整備の目的が達成されたことにより、再整備前の公園と比べ、高い満足度を得られたことが推察できる。

次に、その他の意見として再整備後、改善できなかったこと、これから改善してほしいことについて調べた結果、花畑公園は「ベンチの不足」が最も多く、「広場の水はけの悪さ」と「施設周辺に

表-5 花畑公園の評価と満足度との関係

花畑公園	
評価項目	満足度
芝生広場に犬を連れて来る利用者がいなくなりましたか	0.167
犬の放し飼いやゴミ捨てなど公園の利用マナーが良くなりましたか	0.308**
公園内の見通しが良くなりましたか	0.377**
浮浪者・不審者がいなくなりましたか	0.431**
安心して子供を遊ばせるようになりましたか	0.358**
成熟した緑により自然を感じられますか	0.405**
樹木や芝生など公園内のみどりは保存されていますか	0.471**
児童と幼児の遊具コーナーに分けられ遊びやすくなりましたか	0.224*
トイレのは使いやすくなりましたか	0.316**
園路の整備により歩きやすくなりましたか	0.360**
子供が外遊びを楽しむようになりましたか	0.250*
利用目的により空間が分けられ利用の混雑が解消されましたか	0.522**
利用者の年齢層が広くなりましたか	0.392**
公園の利用者が増えましたか	0.330**
健康運動施設は健康に良い効果があると思いますか	0.423**
築山のリハビリ効果はあると思いますか	0.493**

** : p < 0.01

表-6 五丁田公園の評価と満足度との関係

五丁田公園	
評価項目	満足度
公園内の見通しが良くなりましたか	0.403**
浮浪者・不審者がいなくなりましたか	0.381**
安心して子供を遊ばせるようになりましたか	0.557**
児童と幼児の遊具コーナーに分けられ遊びやすくなりましたか	0.420**
樹木や花など公園内のみどりは保存されていますか	0.401**
多様な植栽が見られるようになりましたか	0.599**
成熟した緑により自然を感じられますか	0.481**
トイレは使いやすくなりましたか	0.293*
園路の整備により歩きやすくなりましたか	0.233
フェンス・花壇・段差の撤去で広く使えるようになりましたか	0.360*
広場の整備により、多目的な利用ができるようになりましたか	0.004
広場で行われるイベントに参加するようになりましたか	0.242
広場でのイベントの際、使い勝手は良いと思いますか	0.326*
利用者の年齢層が広くなりましたか	0.263
公園の利用者が増えましたか	0.226
公園が明るくなりましたか	0.403**

** : p < 0.01

木陰がほしい」が多かった。そして、五丁田公園は「施設周辺に木陰がほしい」と「ベンチの不足」が多かった。この結果から快適な公園の利用やコミュニケーションの形成のために、木陰とベンチの組み合わせた空間の重要性が示唆された。

4. まとめ

以上の結果を踏まえ、小規模公園の再整備による空間構成の変化が利用者の利用形態や満足度に与えた影響について以下の3点の計画論的な知見を得ることができた。

一つ目に、小規模公園の再整備事業の検証として再整備前後の比較により、利用者の満足度を評価した結果、再整備後の利用満足度が増加したことから、再整備のワークショップを通じて住民の意見や行政からの課題を把握し、設計意図を明確にすることは、利用者の満足度を高める上で有効なプロセスと考えられる。さらに、公園の一般利用者を対象として再整備前後の施設や空間の満足度評価を行うことは、公園再整備事業の実効性を評価する上で有効なだけでなく、再整備を含む効果的な公園マネジメントの手法を考究していく上で有効な手段と考えられた。

二つ目に、小規模公園の再整備において、空間機能の限定性を強める再整備と逆に弱める再整備。また、新しい施設の創出を重視した再整備と樹木などの当該公園の特徴や長所として認識された資産の保全を重視した再整備といった対照的な手法の両方が公園の評価と満足度の向上につながった可能性が認められた。このような対照的な再整備が行われた要因としては住民の要望の相違や公園面積による異なる空間特性が主な原因であると考えられる。

三つ目に、再整備後の公園に対する全体的な満足度は高く評価されたものの、個別の施設整備の評価に関しては、それが、住民の要望や課題に応えるものであったとしても、高い評価に結びつくとは限らないことが示唆された。広場のように明確な機能が設定できない多目的な空間と生長に長い時間を要する植栽は、時間をかけて形成される公園資産と捉え、再整備後、ある程度の時において、利用形態が定着した段階での継続的な評価が必要であると考えられる。

補注及び引用文献

- 1) 天野 裕・土肥 真人(2002)：岡崎市奈良井公園改修の参加型プロセスにみるデザイン上の特性に関する研究：ランドスケープ研究 65(5), 731-734
- 2) 菅 博嗣(2003)：市民意向に基づいた公園運営管理計画の策定手法に関する研究：ランドスケープ研究 66(5), 749-752
- 3) 安恒万記(2010)：都市公園再整備におけるワークショップに関する考察：筑紫女学院大学・筑紫女学院大学短期大学部紀要, 5, 163-173
- 4) 台東区土木部公園課(1996)：隅田公園の再整備について：公園緑地, 57(2), 85-86
- 5) 小松市都市整備部緑花公園課(1997)：街の顔・セントラルパークの再整備(芦城公園)：公園緑地 58, 57-60
- 6) 佐野和典(2007)：整備 檜町公園の再整備について：都市公園, 178, 47-51
- 7) 田中 美徳・包清 博之・杉本 正美(2001)：市街地状況の違いと公園利用行動からみた公園に対する評価特性に関する基礎研究：ランドスケープ研究 64(5), 655-658
- 8) 塚田 伸也, 湯沢 昭(2002)：住民意識から捉えた小公園の評価構造に関する検討：日本都市計画学会論文集 37, 907-912
- 9) 前田 博(2008)：公園管理運営評価としての利用者満足度調査の有効性に関する考察：日本都市計画学会論文集 43(3), 283-288
- 10) 前田 博(2009)：指定管理者制度導入前後の公園利用者満足度調査比較にみる制度導入の影響に関する考察：ランドスケープ研究 72(5), 591-594
- 11) 呉 垠錫・廉 晨振・木下 剛(2011)：公園再整備による空間構成の変化と利用形態及び満足度との関係に関する研究：日本緑化工学会誌 37(1), 257-260
- 12) 足立区公園管理課(2010)：足立区公園便覧：足立区都市建設部公園管理課, pp.21, 32
- 13) 設計者へのインタビュー：出来正典：株式会社シビックデザイン研究所, 2011年6月17日
- 14) 設計者へのインタビュー：黒崎良典：中央技研株式会社, 2011年6月20日
- 15) 図1の図面は足立区より提供。筆者再作成